

授業を基礎とした考察と 明確な結論を求める論題作成

学習を促すレポート論題の作り方
～剽窃しにくいレポート論題～

産業社会学部 坂田謙司

1

- ・ 坂田プロフィール
- ・ 今年度の授業テーマと内容
- ・ 毎回の課題とフィードバック
- ・ レポート論題と工夫
- ・ まとめ

2

坂田プロフィール

- ・ 2004年着任（17年目 あと3年で定年…）専門は、ローカル音声メディアの社会史。
- ・ 39歳まで東京でサラリーマンやフリーランスの仕事をしていたが、大学教員を目指して大学院に進学。2004年に博士（社会学）を取得。当時45歳！
- ・ 博士論文は、有線放送電話の歴史社会学的研究
- ・ 戦後日本の農村地帯に存在したローカルな放送と電話のハイブリッドメディアに関する歴史から、なぜメディアがローカルな場所で生み出され、最終的に消えていくのかを検討。

3

今年度の授業テーマと内容

- ・ 担当授業は、音声メディア論
- ・ 音声メディアの歴史をなぞるだけでなく、なぜそのメディアがそのタイミングで社会に登場したのか。社会はそのメディアをどのよに利用したのか。必ずしも、現在の姿が最初から決まっていたわけではない。多様なメディアの可能性から選択されて社会に溶け込んでいった。
- ・ 基本は「あたりまえを問い直す」作業を、個別のメディア紹介を通じて考える。

4

今年度の授業トピック

- ・ 音の発声と聞こえの仕組み
- ・ 電話という音声メディア 電話マナーと電話恐怖
- ・ 声とジェンダー 自動音声案内はなぜ女性声なのか？
- ・ 発話と沈黙 交換手とタイピストとジェンダーの関係
- ・ ラジオと災害 なぜラジオは災害時に求められるのか
- ・ ラジオと命 なぜ声のメディアが命を守る役割を担うのか
- ・ 声と音をめぐる欲望 声の記録から音楽の複製へ オルゴールと蓄音機
- ・ 騒音と静寂 騒音の誕生と静寂の欲求

5

毎回の授業課題とフィードバック

- ・ 毎回、授業内容に関する課題を出題。
- ・ 締め切りがタイトだったので、学生はやや不満だったよう。
- ・ 課題内容は、「ラジオと命」の回では、「実態を持たない「声」が他者の心を救うという事実を経験した人は多いだろう。今日の授業のなかでも、発する声、受け取る声が多く傷ついた人々を救っている。では、なぜ命を救う音声メディアや組織は、広がっていかないのだろうか？理由も書いてください」
- ・ 次回の授業で、ピックアップして内容を紹介。

6

レポート論題と工夫①

- ・ レポート論題 昨年以来の新型コロナウイルス禍において、社会や日常は大きく変化している。その中でも音声メディアは注目を集め、広がりを見せている。本講義では、「声」と人間・社会との関わりをポジティブな面から考えきた。人を助け、癒やし、命を救うことを学んだ。しかし、歴史や世界を見渡せば、「声」が人々を苦しめ、傷つけ、多くの命を奪う場面も数多く起こったし、今でも起こっている。
- ・ そこで、具体的な「声が人々を苦しめ、傷つけ、多くの命を奪う」事例を調べ、「なぜ声は人を救うことと、苦しめることの両面を持つのか」について、考察とそこから導かれたオリジナルの答えを示してください。「声は使う人の気持ち次第」のような単純な答えは不可。必ず、声の特性、人間の意識との関係、社会的な背景などの、問題設定を行って論じてください。

7

レポート論題と工夫②

- ・ ① 締め切りは、統一レポート締め切り日の7月22日17:00。
- ・ ② 提出場所は、レポート試験提出先。
- ・ ③ 形式は、PDFファイル
- ・ ④ 分量は、テキスト換算で3000字以上、4000字以内。
- ・ ⑤ 書式は、MS明朝、11ポイントを使用。第1行目に論題（センタリング）、第2行目学生番号と氏名（右揃え）は必須。各章の間は、1行空け。必要であれば、各章に節、項を設定しても良い。
- ・ ⑥ 第1章「はじめに（背景と流れ）」、第2章「具体的な事例（章タイトル必須）」第3章「音との関係を論理的に説明（章タイトル必須）」、第3章「結論（論題に対する答えを明示。明示されていない場合は不合格）」、第4章「まとめ（全体を簡単に振り返り、自分の感想を加える）」、最後に「参考URL、参考文献（URLのみは不可 かならず文献を使用）」を必ず書く。
- ・ ⑦ 第2章および第3章には、あわせて2冊以上の文献からの引用を必ず行う。引用箇所数は2箇所以上。
- ・ ⑧ 結論には、「つまり、声が命を救うことと奪うことの両面を持つ理由は、xxxなのである」という表記を必ず用いること、
- ・ ⑨ 図やグラフなどをネットから利用する場合は、必ず出典（サイト名、図表タイトル、URL）を明記。
- ・ ⑩ 参考文献・URLの後に、音声メディア論の簡単な感想を書いてください。文字数は自由です。

8

レポート論題と工夫③

- ・剽窃とは、レポート等に、引用の形式を取らず、著作権者に無断で著作物を複製・転載することで、学術上のルール・モラルに反する行為です。また、著作権法に違反する行為であり、懲役刑または罰金刑が科せられることがあります。（APU Academic Officeより）
- ・つまり、手法が問題。今や、インターネットでの検索や情報の利用は大前提。「コピペ」するのがいけないのではなく、正しい方法で行うことが大事。
- ・そして、「答えはネット上に存在しないこと」を学生に学んでもらうことが大切。
- ・「コピペ」では作れない論題の工夫。

9

レポート論題と工夫④

- ・産業社会学部では卒業論文が必修化され、書式に関しても統一した形式を提示している。
- ・したがって、他学部学生も含めた書式の指定、レポートの構成、引用文献の指示等を細かく設定。
- ・授業で学んだ内容を基礎として、新たな考察と結論を導き出す。
- ・そして、結論の書き方として「つまり、声が命を救うことと奪うことの両面を持つ理由は、xxxなのである」という表記を必ず用いること」と指示。
- ・結論を曖昧にせず、自分の考察を書かなければならない（答えはネット上にはない）。しかも、授業内容を踏まえた上での考察を求めている。

10

まとめ

- ・剽窃をさせないとは、正しいルールでの「コピペ」を求めているだけでなく、ネット上の情報を参照することを前提としつつも、そこには「答えがない」ことを大前提にしなければならない。
- ・そのためには、授業で学んだことを基礎として「考察させること」を最優先にテーマ設定を行う必要がある。
- ・「コピペ」で作れる内容は、説明や解説が多い。それに加えて、「あなたはどうか考えるか」「なぜその考えに至ったのか」「その考えの根拠を示さない」を加えることが肝要。
- ・今回のレポート内容は坂田が期待したものとは若干違ったが、学生各自の考察から参考になる面も多く、坂田にとっても有益であった。

11

ご静聴、ありがとうございました

12